

保育計画成果報告書

法人名等	株式会社WITH
施設名	ういず町屋保育園
報告者（役職）	田村由美（園長）
住所・連絡先	東京都荒川区町屋 2-10-3
	☎ 03-6458-2063 E-mail With-machiya@eos.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

「主体的に環境に関わり、毎日楽しく体を動かそう」
～子どもの発達に応じた運動遊びを行い、体力・運動能力の基礎を培おう！～

○主な助成備品

- ・ピクニックガーデンハウス ・パンダクライマー(屋外滑り台・小)
- ・くるりんマットランド ・スチールハウス(収納庫)
- ・カラー竹馬 ・竹馬整理台
- ・巧技台(ビーム・梯子・滑り台等含む)
- ・ちょっとずつ跳べる跳び箱 ・幼児用ロイター板

1. 保育計画策定の目的

『当保育園で、子ども達のために今一番力を入れなくてはいけないところはどこだろうか?』と考えた時、子ども達の「体力のなさ」と「運動能力の低下」が気になりました。直ぐに「疲れた～」としゃがみこんだり、転んでも手が出なかったり、動きが予測できずケガにつながったりしていました。

『子ども達の生活の場である保育園で、現状どれだけ子ども達の発達段階に見合った運動遊びが行えているのだろうか?』と考えると、新園であるため、保育園の設備や環境的にも十分ではないことも要因になっているとも感じました。

このような現状から、子ども達が主体的に環境に関わりながら十分に身体を動かして遊ぶ機会を確保し、体を動かす気持ちよさを体験し、自ら身体を動かそうとする意欲が育つようにしていきたいと考えました。

そして、経験の少ない保育士達が、保育をする際に子ども達の発達段階を保育実践から理解し、自分達に足りないスキルはどこか?を認識し、今の子ども達に必要な保育を学ぼうとするきっかけを作り、子ども達が主体的に遊べる運動遊びを日々の保育の中に組み込んだ保育を行ってほしいとも願いました。

2. 具体的な実施内容

☆各年齢に応じた発達を促すことができる遊具を用いて、子ども達が自ら身体を動かす楽しさや心地良さを感ずることができる環境設定や、子どもの発達の特性に応じた遊びを取り入れたりすることが必要だと考えました。

また遊びを通しての運動は、大人が一方向的にさせるのではなく、子どもが自分達で考え工夫し挑戦できるような環境設定や保育者の援助を行いました。

【ピクニックガーデンハウス】

《0歳児クラス》



《1歳児クラス》



《異年齢児と交流》



《4歳児クラス》



・テラスに設置し全園児が遊びました。小さいクラスはテラスでおままごとをしたり、自分達で作ったお弁当をテーブルで広げたりして遊びました。異年齢交流もよく見られました。幼児クラスは、自分達でテラスシートを敷いたりテーブルを持ち込んで、お散歩時に積んだ草花を使ってままごとでお料理をしたりして遊びを展開させていました。

【パンダクライマー】

《1歳児クラス》



・テラスに設置。主に0歳児クラス(高月齢)～2歳児クラス(低月齢)が遊びました。小型の滑り台なので、小さいクラスの子供達が喜んで遊ぶ姿が見られました。階段はなく、側面に足を引っかけて上まであがるので、腕の力や身体のバランスを取る動きができたように思います。また、テラスに出ると自ら滑ろうとする子が多く、登る順番・滑る順番を守るというお約束もできるようになりました。

【くるりんマット】

《0歳児クラス》



《1歳児クラス》



・主に0歳児と1歳児が遊びました。柔らかいマットの上を転がったり、這って坂や階段を上り下りしました。寝返りや腹ばい、ハイハイや高這い等の全身運動を行いました。トンネル等と組み合わせて、サーキット遊びも楽しみました。

【カラー竹馬】

《5歳児クラス》



・5歳児が遊びました。最初、補助具をつけないと歩けなかった子ども達も、繰り返し遊ぶうちに、補助具なしで歩けるようになりました。裸足で行ったので、足の指でポールを挟みバランスを取りながら移動するという、普段行わない動きを体験しました。

【巧技台(ビーム・梯子・滑り台含む)】

《1歳児クラス》



《2歳児クラス》



・1歳児 2歳児クラスは、保育士がある程度設定した中で取り組みました。まずは床に近い低い状態から始め、少しずつ巧技台の高さや組み立て方を変化させていき、子ども達に経験して欲しい動きをさせ、子ども達ができることを少しずつ増やしていきました。

《3歳児・4歳児クラス》



《5歳児クラス》



・幼児クラスになると、自分達で巧技台を組立て、様々な動きに挑戦していました。梯子を渡ったりぶら下がったり、ビーム(平均台)を移動する際も、だんだん高さを求めて、少し難しいことに意欲的に挑戦しようとしている姿が見られました。

【ちょっとずつ跳べる跳び箱・ロイター板】

《5歳児クラス》



《運動会で披露した様子》



・跳び箱は、5歳児クラスが遊びました。ロイター板を使い、助走から踏み込むタイミング等、跳び方の方法を一つずつ教えていきました。全員5段まで跳べるようになり、(跳べる子は7段まで)9月の運動会で披露しました。

3. その成果と評価

《園児に対して》

様々な遊具や運動遊具を用いることにより、各年齢の発達の特性に合った運動遊びを行う機会が増えました。楽しく身体を動かす多様な遊びの経験が増えると、一人ひとりの多様な動きも増え、いろんな動きができるようになりました。

0歳児…たくさんハイハイをして筋力を高める

1歳児…歩行の完成とバランス力を高める

2歳児…しゃがむ等の柔軟性を身につける

幼児…体のバランスをとる動き・体を移動する動き・用具などを操作する動き

＊運動遊具を調整する能力や危険回避の基礎となる能力の向上

＊姿勢を維持し、体を支える力や運動を続ける能力の向上

＊子ども達が体を動かすことが楽しいと思い、自ら体を動かそうとする意欲

＊自ら環境に関わり、主体的に遊べるようになる

＊楽しく運動遊びをするために必要なルールを身につける

自分の身体が心地良く動くようになる実感は「やってみたい」という挑戦意欲を高め、できた時には「自分にもできた!」という自信が生まれ、今以上に挑戦したいという意欲が芽生え、さらなる動きの獲得に繋がっていくと感じました。

《保育士に対して…》

様々な遊具や運動遊具を用いて実践する機会が増えたことで、子どもの身体諸機能の発達の視点から捉えることができるようになり、子ども達の動きを予測して遊びの援助を行えるようになってきたように思います。

遊具や運動遊具を使つての遊びを行う際に、必要なスキルの獲得(例・跳び箱の指導・巧技台の活用方法等)についても、保育士一人ひとりが実践を通して学ぼうとする姿勢や意欲が見られました。

4. 今後の課題と展望

☆子ども達の心が動くときと身体が動き、身体が動くと心がいきいきとすることから、子ども達が主体的に遊べる環境作りや関わり方の工夫を再度見直し引き続き実践していきます。

見守り、認めてくれる保育者・異年齢や同年齢の友達・思い切り身体を動かせる空間

思わず身体を動かしたくなる環境・納得するまで取り組める時間・興味関心が高まる環境

☆今後も常に子どもの動きや興味を把握して、多くの動きのパターンが日常の遊びの中で取り入れられているかをチェックし、不足している動きを体験できるような実践を行い、子ども達の基礎的運動能力を伸ばしていけるように多種多様な動きができる遊びの展開を行っていきたいと思います。